

《原 著》

## 前立腺癌患者における尿中 NTx と骨シンチグラフィの比較

福光 延吉\*      内山 眞幸\*\*      森 豊\*\*      築田 周一\*\*\*  
波多野孝史\*\*\*      五十嵐 宏\*\*\*      仲田浄治郎\*\*\*

\*東京慈恵会医科大学附属柏病院放射線科  
\*\* 同 放射線医学講座  
\*\*\* 同 附属柏病院泌尿器科

要旨 新しい骨吸収マーカー I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) の骨転移に対する診断能について、前立腺癌患者 69 例で検討した。骨シンチグラフィより骨転移 + 群と骨転移 - 群に分類した。骨転移 + 群 36 例の尿中 NTx/Cr は  $95.5 \pm 18.5$  nM BCE/mM Cr (平均値  $\pm$  標準誤差) で、骨転移 - 群 33 例の値  $63.3 \pm 7.9$  nM BCE/mM Cr に対し、有意に高値を認めた。骨転移 - 群に対し骨転移 + 群で、2 か月以内の尿中 NTx/Cr の変動が大きくなる傾向を認めた。EOD grade 分類を用いた検討では、+ 群 6 例の尿中 NTx/Cr は  $211.4 \pm 96.9$  nM BCE/mM Cr で、- 群に対し有意に高値を認めたが、- 群と他の + 群の間に有意差は認めなかった。尿中 NTx は簡便かつ非侵襲的に測定可能で、骨転移の診断に有用であるが、骨シンチグラフィほどの鋭敏さはなく、骨シンチグラフィの補助的診断としての性格をもった指標と考えた。

(核医学 36: 333-339, 1999)